

平成24年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市観光課

1. 概要

平成 24 年（1 月～12 月）の柳川市への観光客の入込客数は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響を受けた前年の約 105 万 5 千人から 11%増加、震災前の平成 22 年と比較しても 2 万人増加し、約 117 万 4 千人だった。前年比、月別にみると 4 月と 8 月は大きく上回っており、4 月は「中山大藤まつり」期間中は駐車場も満車状態が続き、県外ナンバーも多く見かけられ、市外や近隣からのお客様の割合が高まった。8 月は前年自粛された「有明海花火フェスタ」が開催されたことで、大きく増加に転じた。しかし大きな被害をもたらした九州北部豪雨が発生した 7 月を見ると災害の影響が残り、前年と比べて減少となっている。平成 24 年は全国的な傾向をみても、東日本大震災の影響により、旅行先を関東方面から九州を選択する動き、いわゆる「西日本シフト」した観光客がみられ、福岡市内の観光施設数社に聞き取りをしたところ、前年に比べ観光客が増加したとの声が聞かれた。特に、修学旅行の学生が目立ったとの声もあった。

観光消費額は、入込客数の増加に伴い、前年の約 43 億 5 千万円から約 4%増加し、約 45 億 4 千万円であるが、震災前の平成 22 年の 46 億 9 千万円までは回復しきれていない。1 人当たりの消費額は、前年の約 4,123 円から約 6%減の約 3,900 円となった。

宿泊客数は、前年の約 3 万 9 千人から約 7%増加し、約 4 万 2 千人となり、震災前の水準に回復した。宿泊者の割合は 3.6%である。

観光客の交通手段は、乗用車利用者が約 54%、西鉄電車利用者が約 30%、大型バス利用者が約 16%の割合となっている。乗用車を利用した観光客数が大きく伸びており、個人観光客が多く占めている現状がうかがえる。

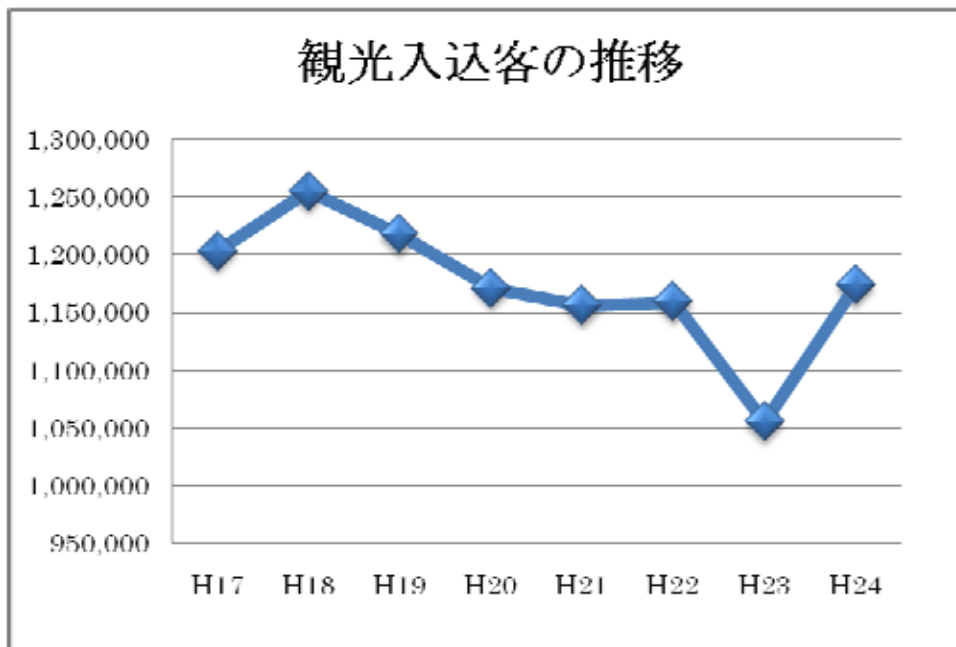
川下りの利用客は、前年の約 28 万 4 千人から約 3%増加し、約 29 万 3 千人となったが、震災前の 31 万 5 千人には回復しきれていない。

なお、九州運輸局の宿泊統計によると、宿泊者数は、東日本大震災の影響や、日帰り旅行客の増加により全国的に減少しているが、全国の減少率と比較すると九州の減少率は小さいものだった。また、九州の宿泊施設を利用した観光客の居住地は、43%が九州となっており、次いで関東、近畿の順で多く、九州の観光客は、九州内で観光する傾向がある。

2. 観光入込客数

(1) 観光入込客の推移

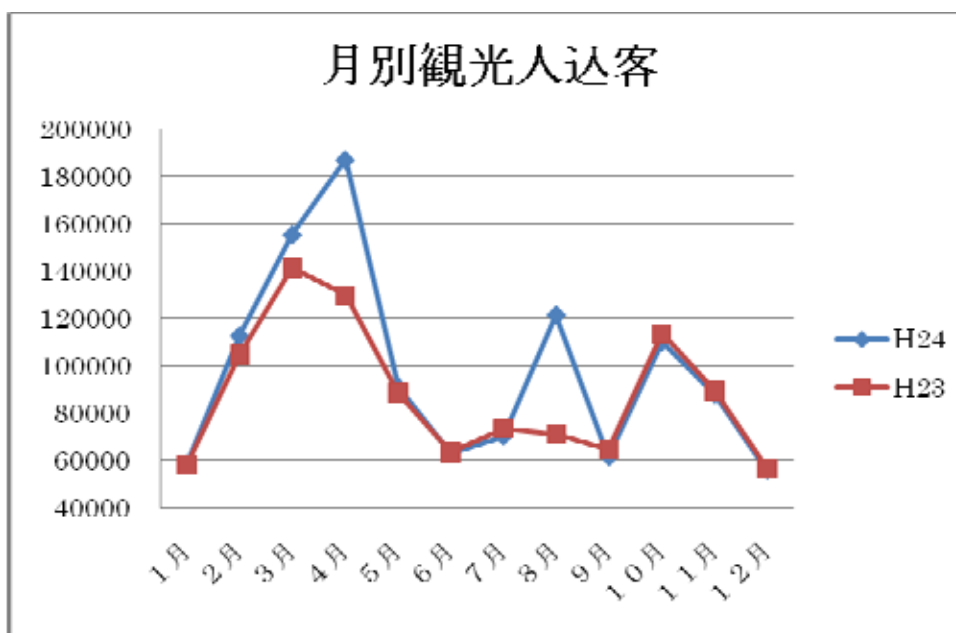
観光客の入込客数は、117万4千人で、前年と比較すると11万9千人の増加となっている。主な増加の要因は、各イベントの市外からのお客様の割合が高まったことや東日本大震災の影響による西日本シフトが考えられる。



(2) 月別観光入込客数

入込客数を月別にみると、春先の2月から4月がピークであり、寒い時期の1月、12月の冬場が極端に少ない状況である。これは、2月から開催される「さげもんめぐり」や「中山大藤まつり」のイベントの集客が大きいと考えられる。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響で自粛した有明海花火フェスタが開催されたことで8月は大きく伸びた。



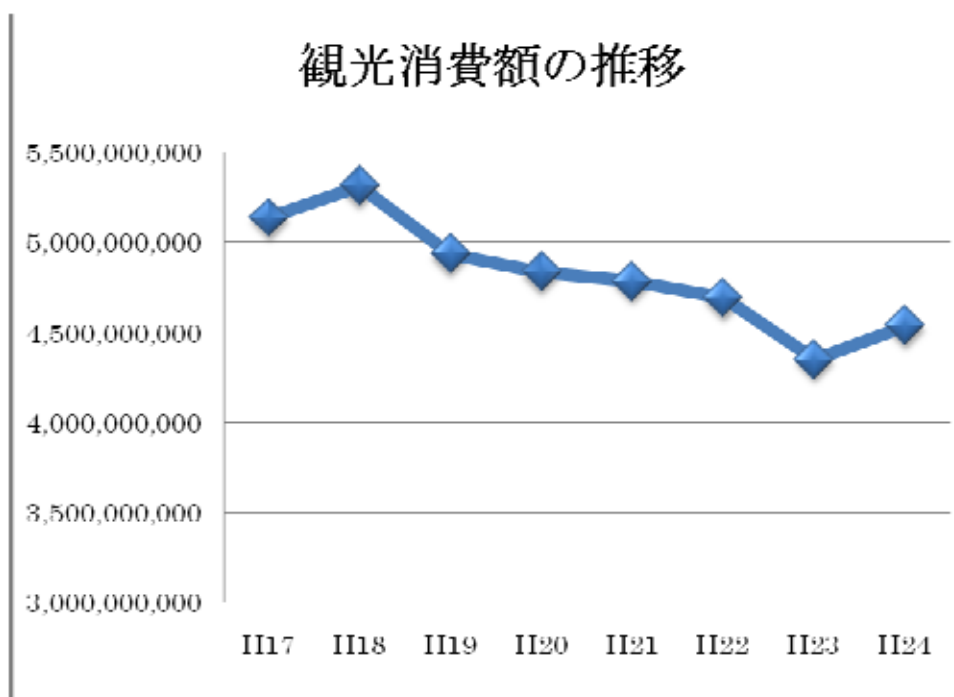
3. 観光消費額

(1) 観光消費額の推移

推計消費額は、入込客数の増加に伴い約 45 億 4 千万円で、前年と比較すると約 2 億円の増加であったが、震災前の平成 22 年の 46 億 9 千万円までは回復しきれていない。1 人当たりの消費額は約 3,900 円と前年と比較すると約 200 円の減少となっている。

これは、大型バスの台数減による駐車場料金の減少と観光施設の入場者が減少した事が主な理由と考えられる。

また、最も高い消費額は食事代で、約 19 億 1 千万円。また、川下りが約 3 億 9 千万円となっている。



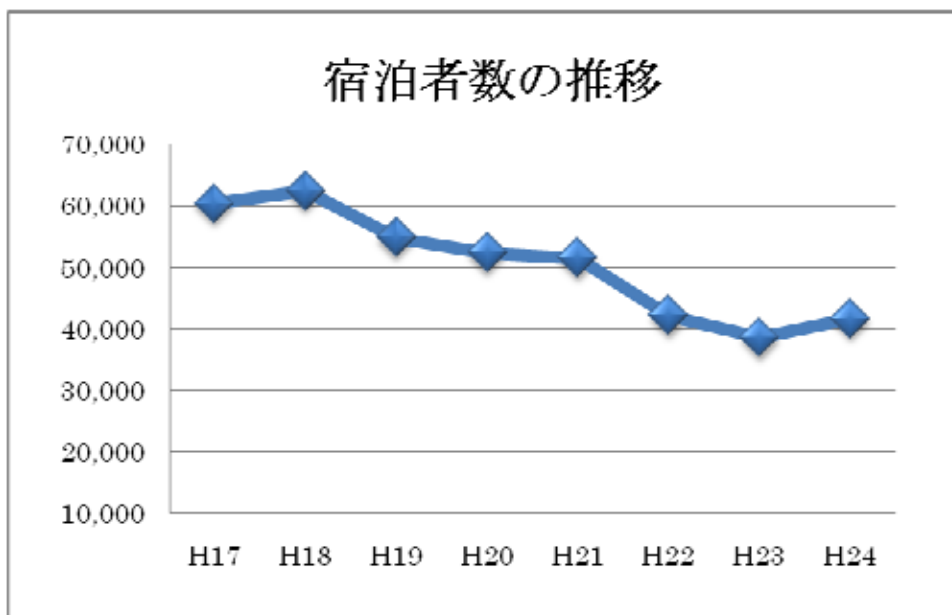
4 . 宿泊客数

(1) 宿泊客数の推移

宿泊客は、約 4 万 2 千人であり、前年比約 3 千人の増であり、震災前の水準に回復した。

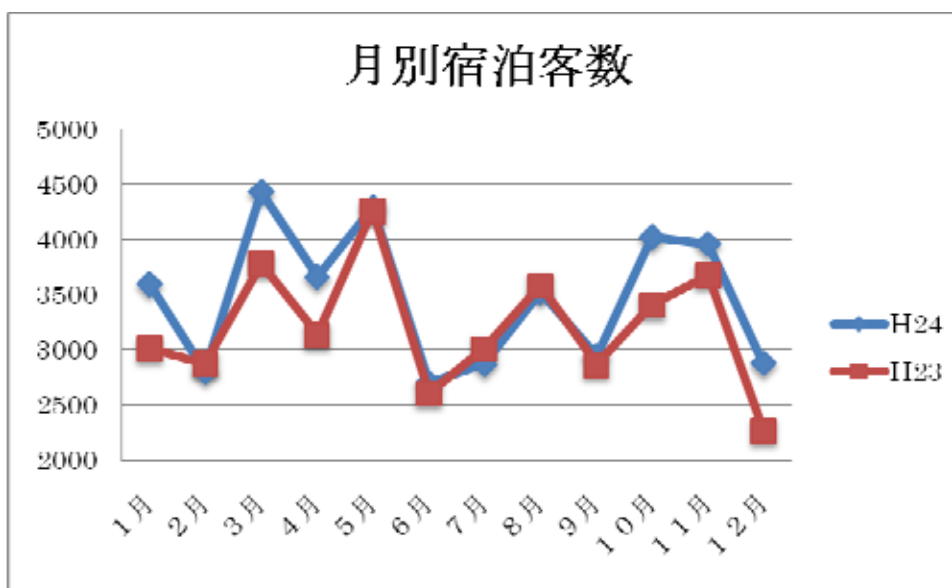
また、観光入込客数に占める宿泊者数の割合は、約 3.6% であり、日帰り・通過型の観光客が大半を占めている。

また、市内の宿泊施設は、平成 22 年に 1 施設廃業、平成 23 年に 1 施設休業し、現在 9 施設となっている。



(2) 宿泊客数と観光入込客 (月別)

平成 24 年の月別宿泊客数では、3 月と 5 月がピークとなっている。

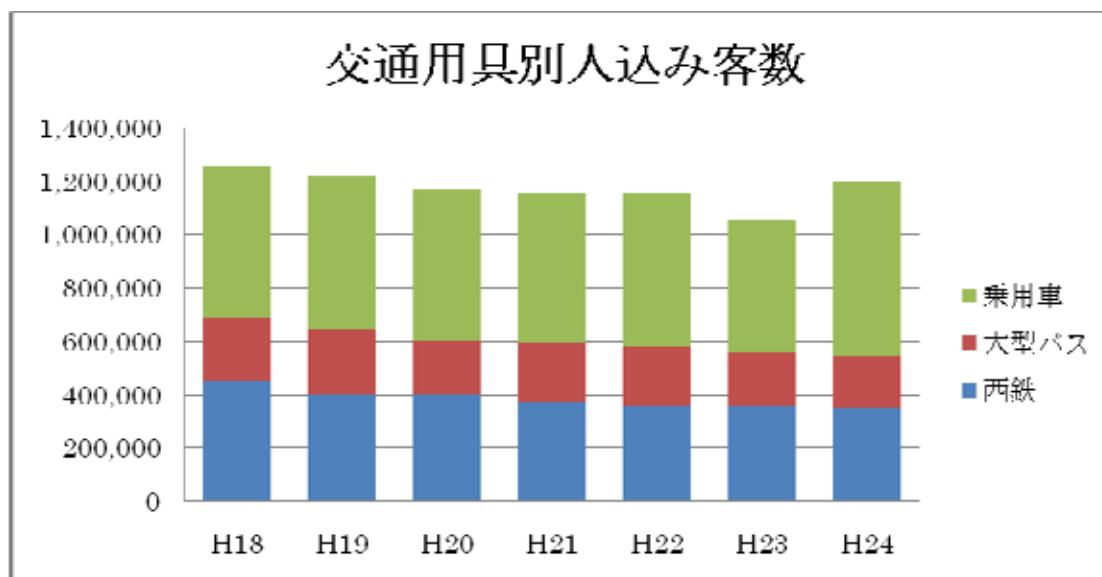


5. 個別の交通機関

(1) 交通用具別入込客数の推移

交通手段（大型バス・西鉄電車・乗用車）別に観光入込客数を推定すると、乗用車利用者が全体の54%を占め、西鉄電車利用者が約30%、大型バス利用者約16%となっている。

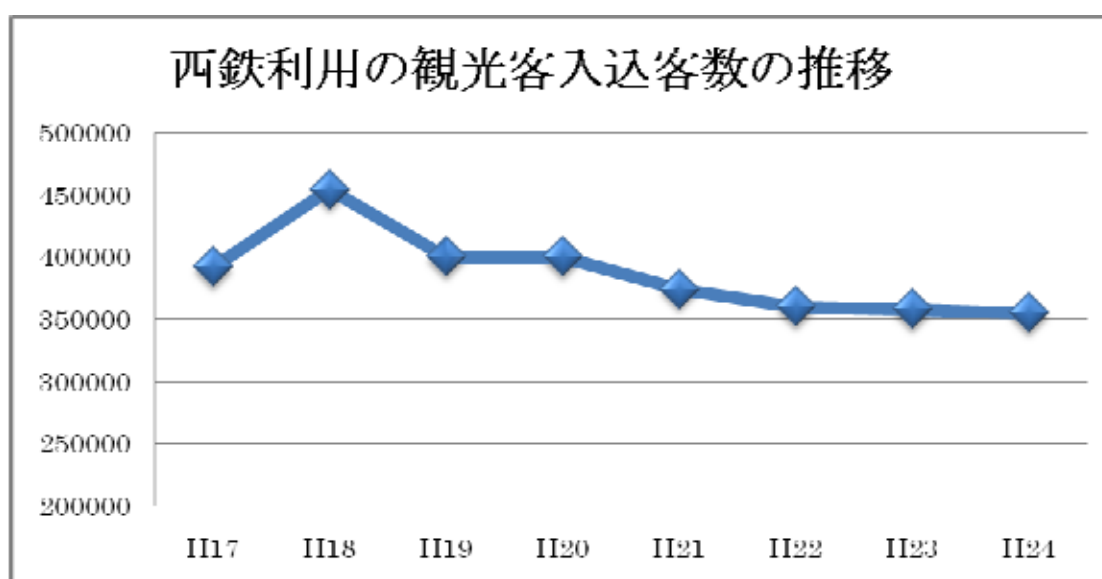
このことから、乗用車や西鉄電車で移動する小グループ・家族で旅行する個人型の観光が多くを占めていることがわかる。

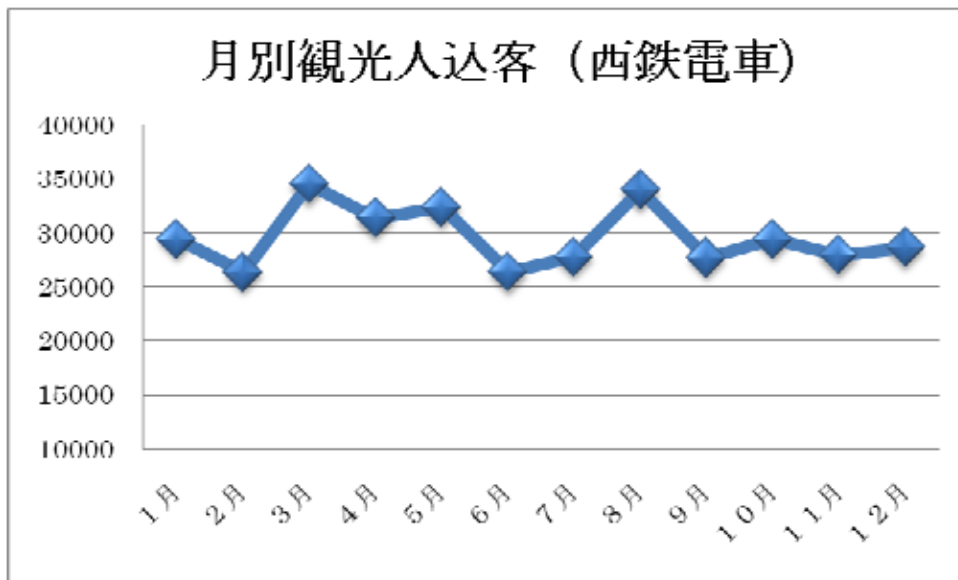


(2) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約195万1千人であり、昨年比約3万7千人の減少となっている。その中で、西鉄を利用する観光客入込みは、35万5千人と推計され、全体の観光客数の内、約30%と推計される。西鉄利用の観光客は年々減少傾向である。

西鉄利用の観光客の内、西鉄が販売している「柳川特盛きっぷ」や「湯ったり柳川きっぷ」といった企画きっぷを利用して訪問される観光客も見られる。



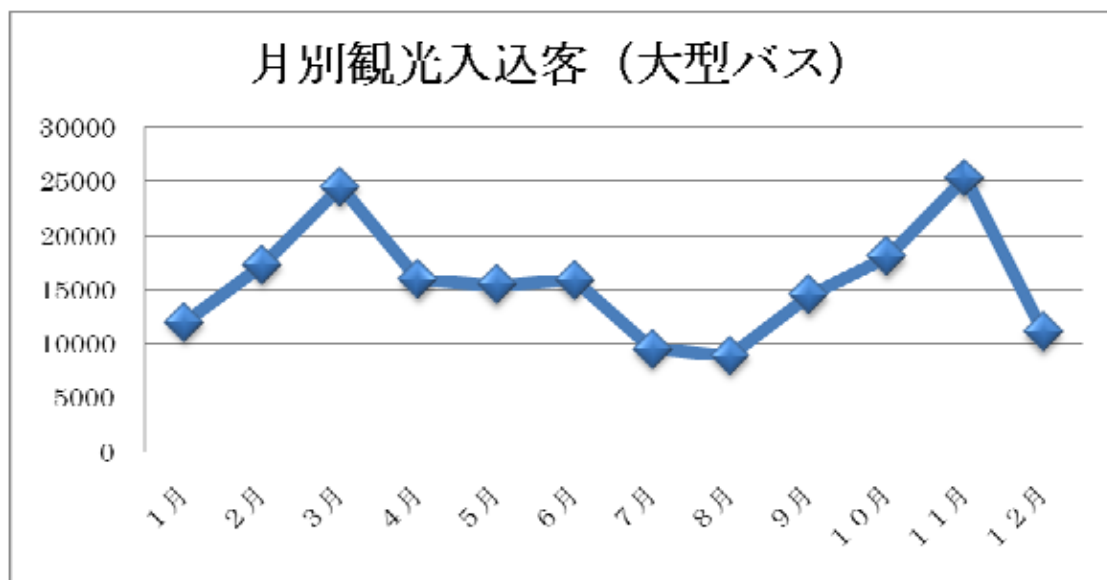


（3）大型バス

主要駐車場の大型バスの台数状況を見ると、延べ約4千2百台の駐車があり、前年比で約750台減少している。

大型バスを利用する入込み客数は、約18万9千人で全体の16%を占めており、前年比で約1万4千人減少した。

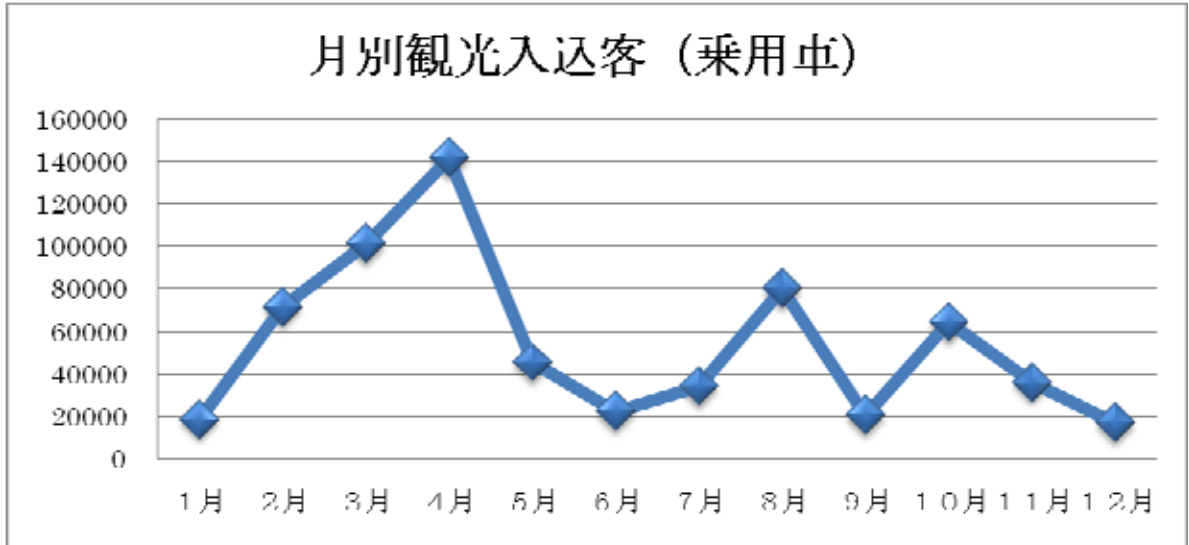
月別にみると、2月から3月にかけての「さげもんめぐり」のシーズンと11月の秋の行楽シーズンが多くなっている。



(4) 乗用車

イベント駐車場利用を除いた市営駐車場などの主要駐車場の駐車状況を見ると、約 1 万 5 千台であり、前年とほぼ同じ台数であった。

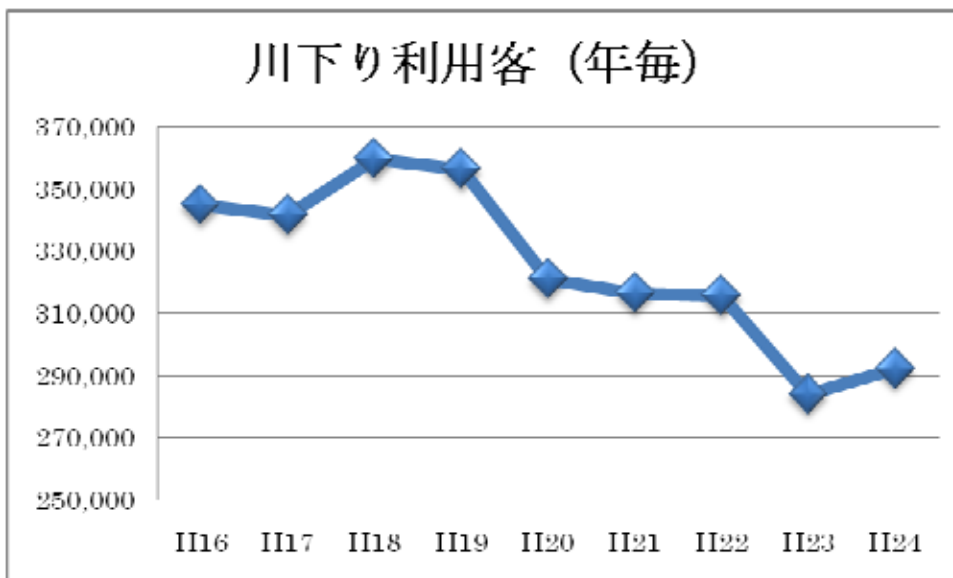
マイクロバスを含めた乗用車を利用する観光入込み客は、65 万人で、全体の 54%を占めている。

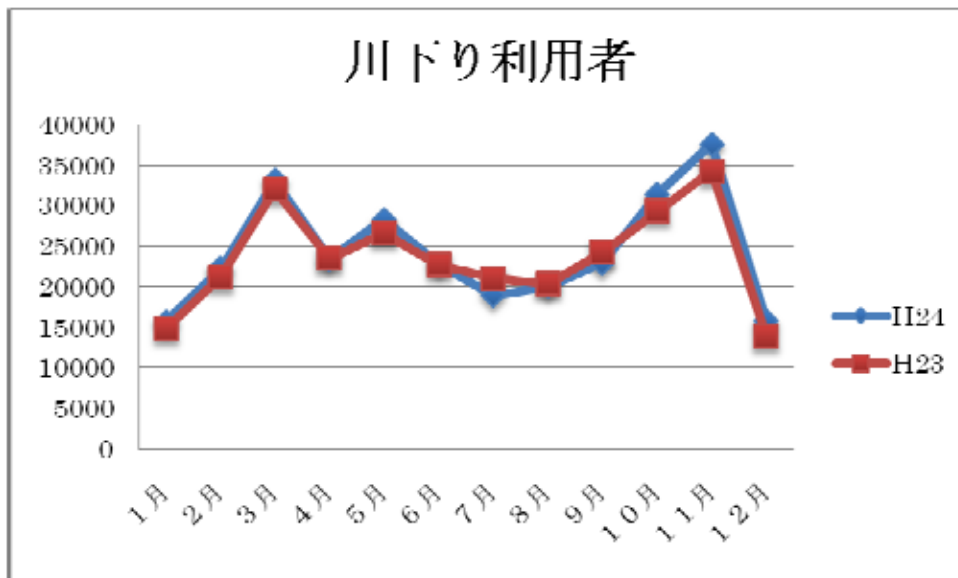


6. 主な観光施設の入込客数

(1) 川下り

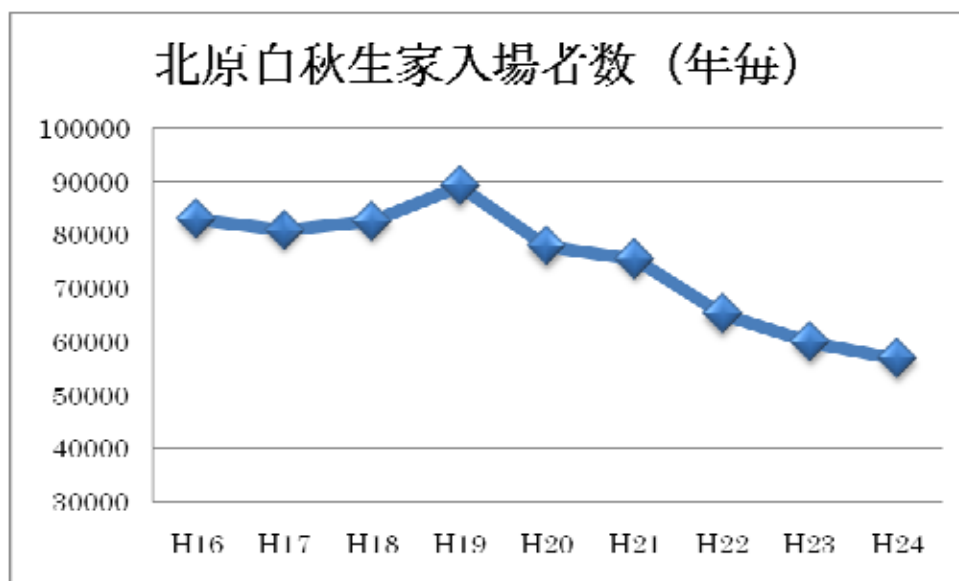
川下り利用者については、約29万2千人で、前年と比べると約8千人増加となったが、震災前の平成22年の31万5千人には回復しきれていない。月別にみると、11月がピークで約3万8千人となっており、次いで3月が約3万3千人の利用となっている。





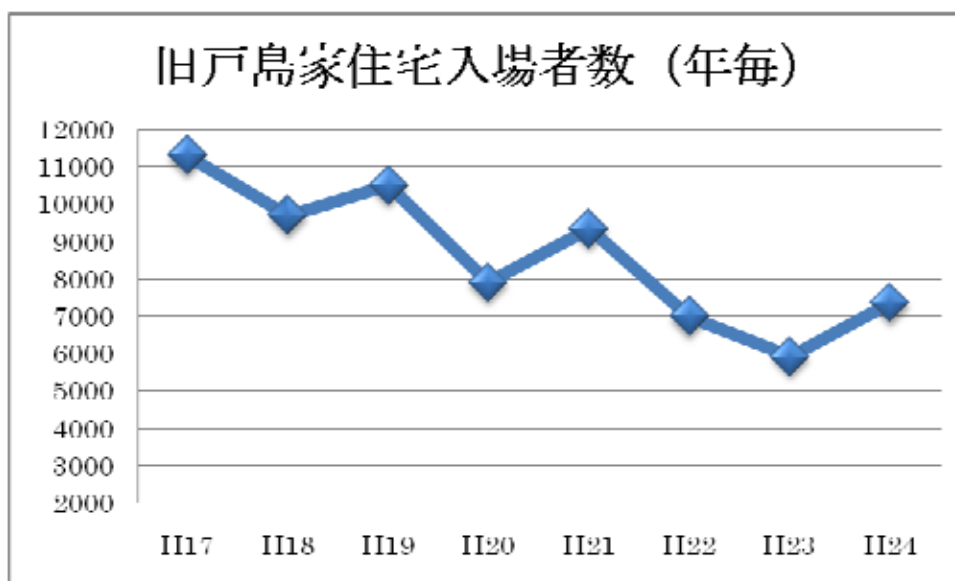
(2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入込客は、約5万7千人であり、前年比で約3千人減少した。



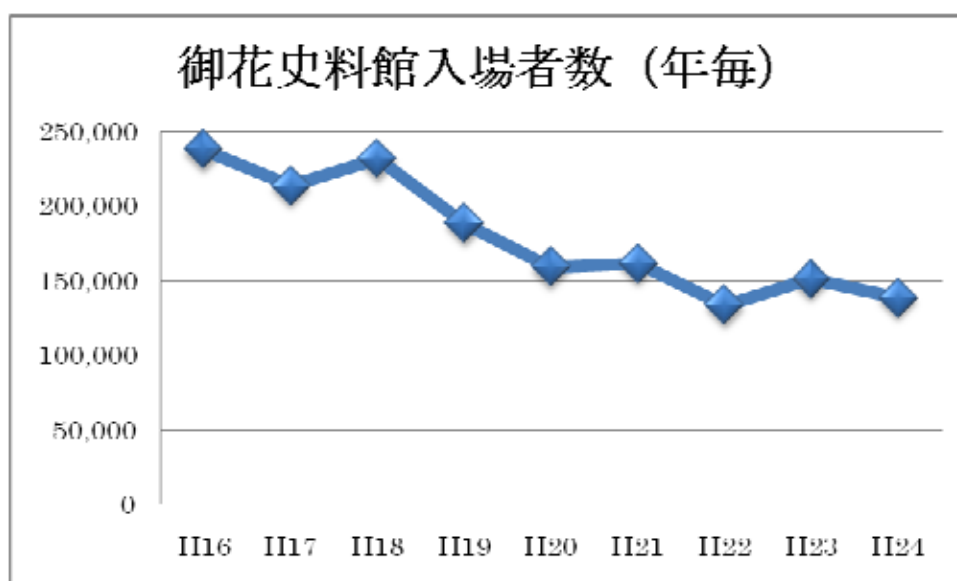
(3) 旧戸島家住宅

旧戸島家住宅の入込客は、7千人で前年比約1千人の増加となっている。



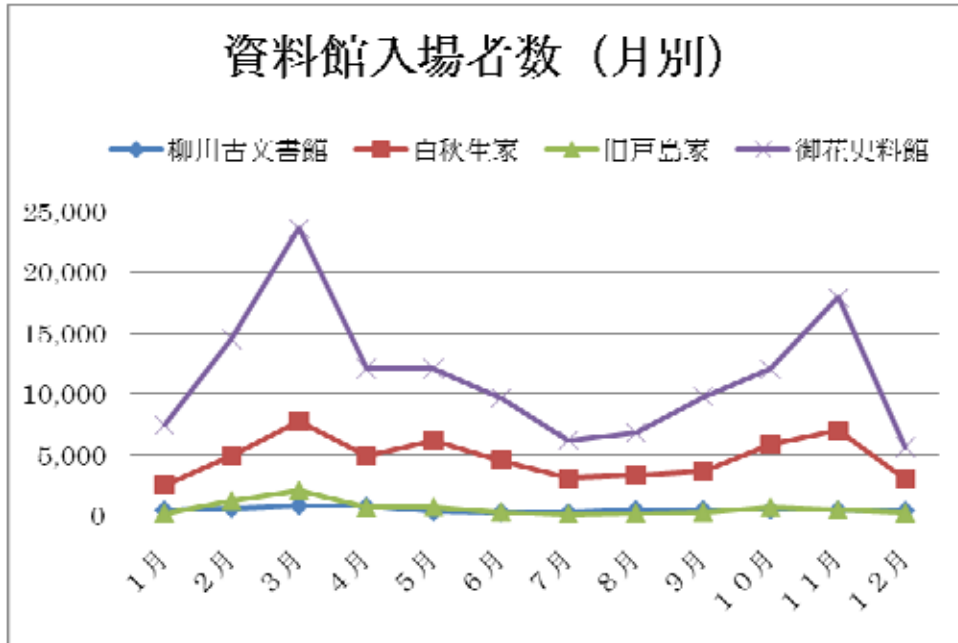
(4) 御花

御花史料館の入場者数は、約13万8千人で前年比約1万3千人の減少となっている。



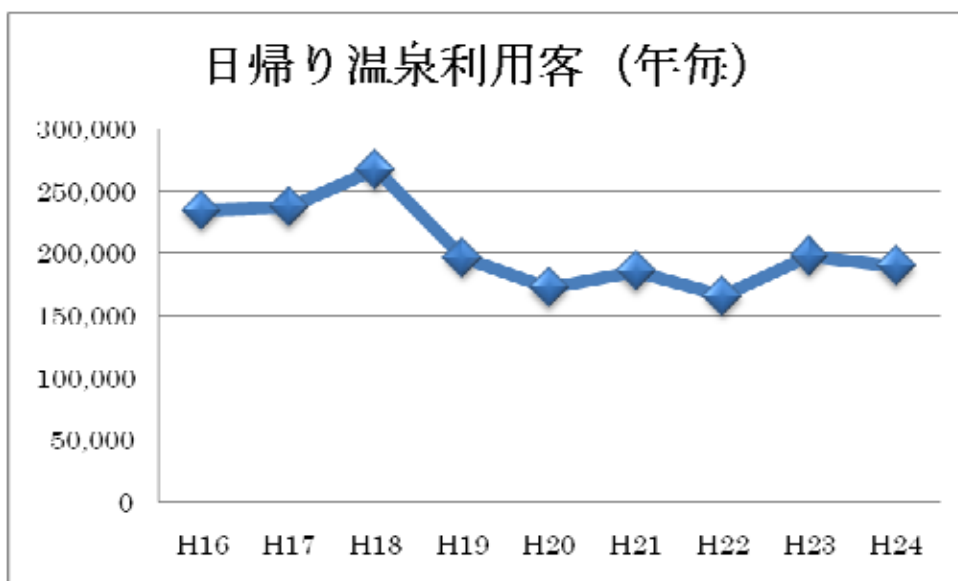
(5) 資料館入場者数 (月別)

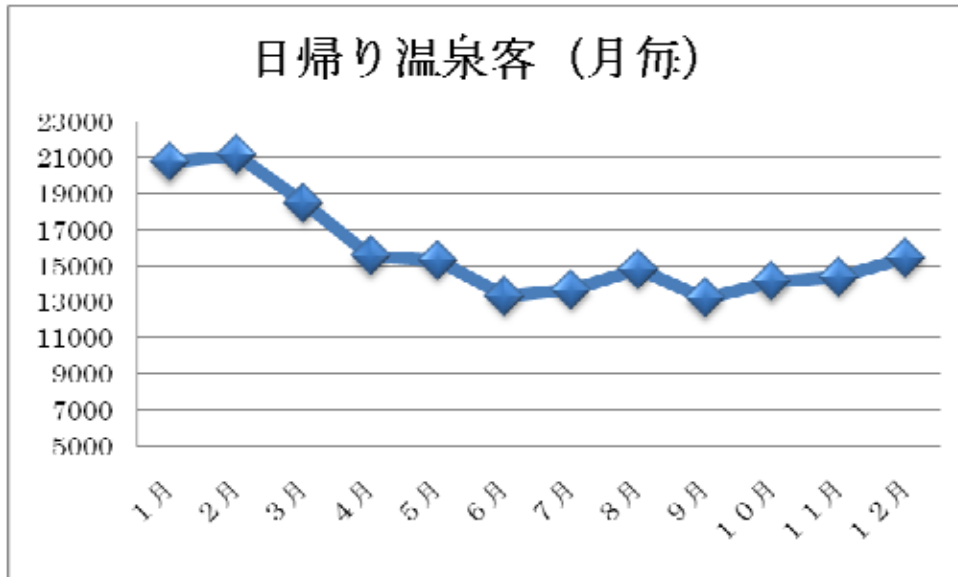
資料館別に入場者数をみると、御花の史料館が1番入場数が多く、次いで白秋生家、旧戸島家住宅、柳川古文書館の順となっている。北原白秋生家へ来館された方は、無料で旧戸島家住宅に入場できるが、年間入場者数は北原白秋生家5万7千人に対して旧戸島家住宅が7千人となっている。



(6) 日帰り温泉

日帰り温泉客は、約19万人であり、前年比約8千人の減となっている。

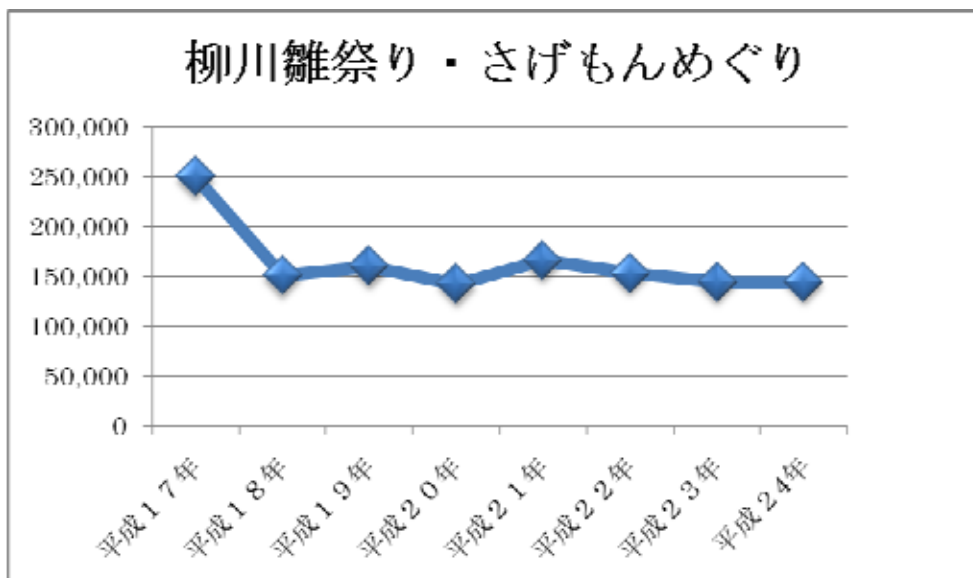


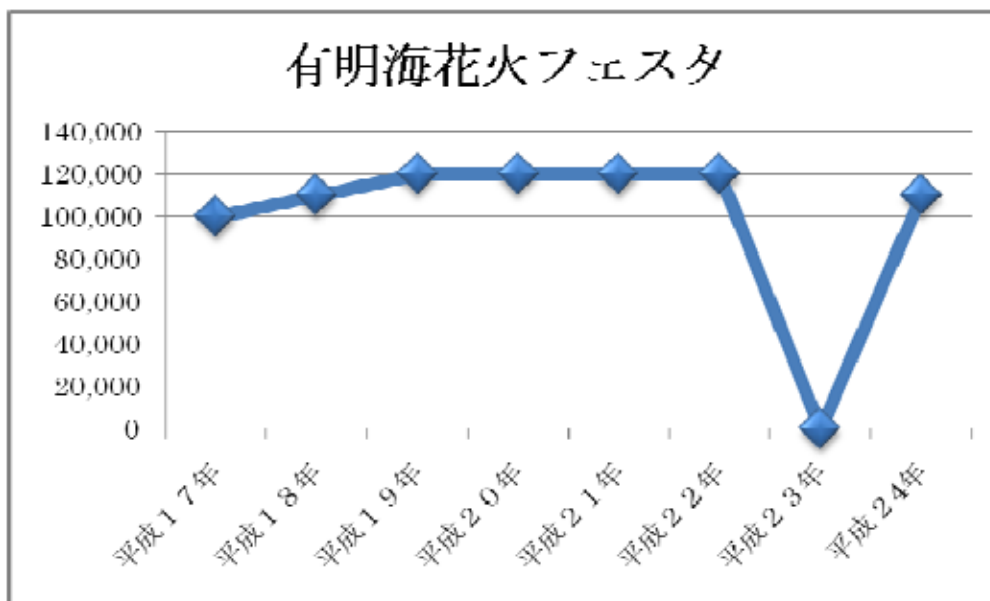
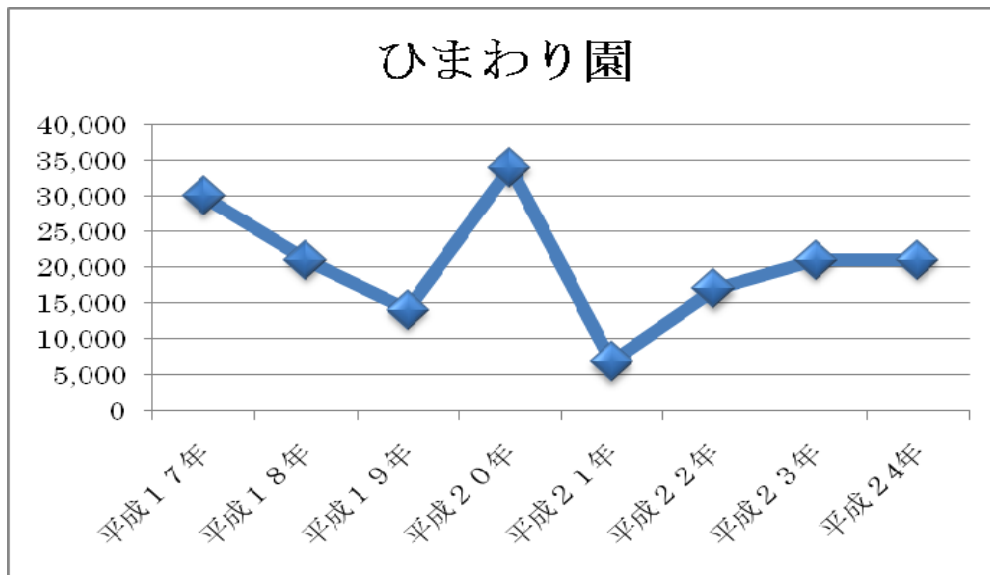
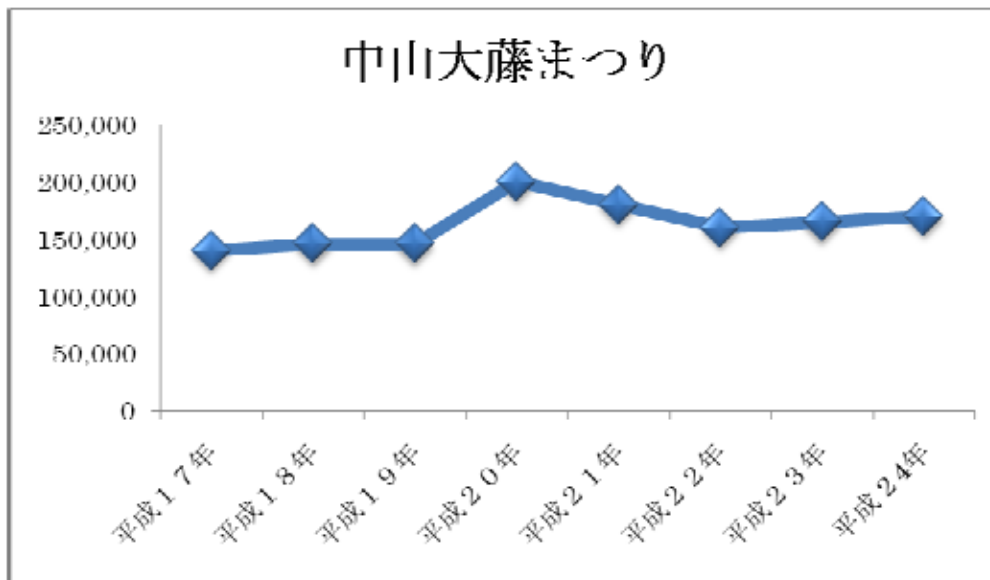


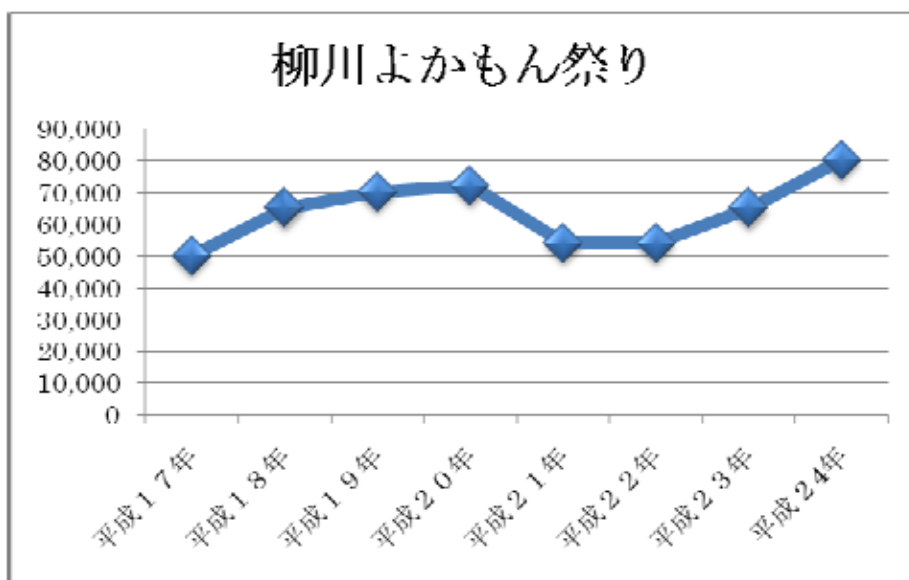
7. 主なイベントの入込客数

主なイベントの入込客数は主催者発表によると、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」約 14 万 4 千人、「中山大藤まつり」約 17 万人となっている。

また、各種イベント「柳川雛祭り・さげもんめぐり」、「中山大藤まつり」、「ひまわり園」、「よかもん祭り」は聞き取り調査結果からも、市外からのお客様の割合が高まっている。駐車場でも県外・福岡ナンバーの車も多くみられた。







8 . 外国人観光客

外国人観光客は、約3万7千人で、前年比約1万3千人の増加だった。国別にみると台湾、韓国、香港などのアジアからの観光客が大半を占めている。

九州運輸局の発表によると、過去最高の114万人が九州を訪れている。